

## 1 主な意見

- (1) 職員体制の整理について、事務職員と学芸員では正規事務職員に比べて学芸員の任期付きや準常勤が多い。今後は学芸員の正規を増やしていくということをお願いしたい。
- (2) 美術館の現場でどのようにつながっていくかということに取り組んでいる身としては半年や一年で結果は出ない。これには5年から10年が必要で、どのように市の発展に寄与してきたかを判断する必要がある。
- (3) 「ニューホライズン」は、半日で全部観ることができ、映像だけでなく他の形式も含め良かった。知り合いでは宿泊したという声も聞いたという意味からも、市への経済効果もあったと思う。
- (4) ニューホライズン展がエッジの利いたものだとすると、前橋の美術は前橋にゆかりがある作家で構成しているということで地域に根差したもの。グローバルな視点と、ローカルな視点を継続してどちらも大切にしていくことが必要だと思う。
- (5) もう美術品を収集しなくてもいいのではないかという意見が自治体で出やすいが、美術館が収集するということは美術振興であり作家の支援であり、周辺の経済効果にもつながるということを踏まえて、購入を続けていくための条件として収蔵庫も含めて環境をどう整えるかということをお考えいただけたらと思う。
- (6) ラーニングの教育的な視点をどうしていくかというのは課題が山積しているかと思うが、持続的な鑑賞者を育てるためには外せない視点である。例えば中高の部活レベルの招待など細々とでもつながるなどのアイデアを出し合っていけたらと思っている。